

2026年度 入学試験問題
第1回 特選コース

国語

(45分)

〔注意〕

- 1 この問題冊子は、試験開始の合図で開くこと。
- 2 解答用紙は、問題冊子にはさんであります。試験開始の合図があったら、解答用紙を取り出して受験番号と氏名を記入し、受験番号をマークすること。
- 3 解答は全て解答用紙に記入しなさい。
* 字数制限のある場合は、特別な指示がない限り、すべて句読点や「」（ ）などの記号を含んだ字数として解答すること。
- 4 印刷が不鮮明な場合は申し出ること。
- 5 問題冊子の余白等は自由に使って構いません。
- 6 試験終了後、解答用紙のみ提出し、問題冊子は持ち帰ること。

一 次の――線の漢字はひらがなに、カタカナは漢字に直して答えなさい。

- 1、定石通りの手を打つ。
- 2、広大な山河を眺める。
- 3、若者の集いが開かれる。
- 4、自責の念にかられる。
- 5、トマトが赤く熟れる。
- 6、コガイで運動する。
- 7、リーダーのシツがある。
- 8、ジゴウ自得だと反省する。
- 9、今後のテンボウをうらなう。
- 10、ライバル同士でセリあう。

二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

アフリカのカメルーンのジャングルで生まれた「私」は、野生のジャングルで生活しながらもゴリラ研究所の職員の子エルシー、テオ、サムなどから言葉を学び、手話でのコミュニケーションが取れるようになる。それだけでなく人間の文化にも非常に興味をもち、その様子を見ていた職員たちは、研究の成果として持ち帰るためにアメリカ行きを提案する。アメリカ行きは決まったものの職員の力だけではどうにもならず、影響力のあるロイド上院議員の力を借りることとなる。手話の内容を理解して言葉として音声を発するグローブ型の機械を用意してもらうことにもなり、見事にアメリカ行きが決まった「私」は、かつて共に生活していた家族を訪ねるためにジャングルへ入って行った。

私は緊張してその場にしゃがみ込んだ。いつでも走って逃げられる態勢で、その動物が姿を現すのを A 待った。
茂みを掻き分けて出てきたのは、一頭のゴリラだった。それも、ただのゴリラではない。それは私が半年前にどうしても見つけれなかったア

アイザックだった。久しぶりに見るアイザックは、以前より体格も良く、堂々としていた。おどおどした様子は既^{すで}になく、自信に満ちた立ち姿は在りし日の父のように頼^{たの}もしく見えた。

アイザックは私を見ると、ゆっくりと近づいてきた。木漏^{こも}れ日が黒い毛を照らし、肩を揺^ゆらして歩くアイザックのがつしりした体格は薄暗いジャングルの中で神々^{ことう}しく見えた。背中の毛は黒から銀色に生え変わっている途中のようで、彼は前に一緒に遊んだ時とは別のゴリラのように逞^{たくま}しかった。

①突然の再会に、私は戸惑^{うたが}ってしまった。アイザックと会えたことは嬉^{うれ}しかった。あれからアイザックに会えていなかったことは大きな心残りだった。だが、もし前と同じように誘われても私には応^{こた}えることができないのだ。私はアメリカに行くのだし、それは既に私だけの問題ではなくなっていた。

アイザックは私の目の前まで近づくと、嬉しそうに低く唸^{うな}り声をあげた。私はその機嫌良^{きげん}さそうな声の調子につられて、同じように歓喜の声で迎えた。半年前には痛々^{いたいた}しかった額の傷もすっかり癒^いえており、貫禄^{かんろく}が感じられた。

(中略)

私の周りを B 歩き回った後、アイザックは短く鼻を鳴らして、さつき出てきたばかりの茂みに向かって戻^{もど}っていった。茂みの陰に隠れる前に私を振り返るともう一度鼻を鳴らし、私についてくるように促^{うなが}した。アイザックが向かったのは私の行きたい方向ではないので私は少し躊躇^{ためら}ったが、後を追うことにした。

(中略)

自然の中であるがままに暮らすのは、なんと素晴らしいことか。こうしてアイザックと一緒にいると、ジャングルの中には私に必要なものが全て揃^{そろ}っているように思えた。ここはロイド上院議員の見ている世界とは②正反対の世界だ。他人の心情や都合、経済や政治に煩^{わづら}わされることなく、気の向くままに時間を過ごすだけだ。もちろん、自然の世界にも厳^きしさはある。都市にはない危険があり、一歩間違えれば死に繋^{つな}がることさえある。だが、優秀なリーダーと多くの仲間がいる群れで行動する限り、そうした危険は避けられる。

私がゴリラらしい、自然な暮らしに思^{おも}いを馳^はせていると、さらに嬉しいことが起こった。私が気付かないうちに別のゴリラが一頭、沼に近づいていたのだ。私はそのゴリラの、肩をしなやかに揺らす優雅な動きを見て、すぐに誰なのか分かった。それは群れの仲間の中でも私が一番仲の良かったアミナだった。私よりも少し年上だったアミナは、いつでも私と遊んでくれた面倒見の良いお姉さんだった。仲が良かっただけに、アミナが私たちの群れを離れて、ポポレ^{ポポレ}の群れに移動してしまった時は悲しかった。ポポレの群れは普段はずっと遠く西側にいるので、それ以来会うのは初めてのことだった。

(中略)

アミナはしばらく私と遊んでいたが、やがて私から離れて沼に入ってしまった。そしてアイザックのすぐ横に身を寄せると、彼の肩に手を置いた。二頭の親密な距離感を遠くから見て、私は全てを悟った。アミナはポポレの群れを離れた。だがガボンゴの群れに移ったのではない。アイザックの伴侶^(注1)となったのだ。アイザックが以前よりも落ち着き、堂々としていられるのも、アミナと一緒にいるからだだったのだ。

私は急に胸が苦しくなり、沼の二頭から目を背けた。だが、二頭が仲睦まじく挨拶^(注2)をしているのを聞いてしまい、私は二頭に裏切られたような気がした。悔しさが **C** 込み上げ、居てもたってもいられず、その場を離れた。すぐにアイザックたちから離れたかった。今見たことを忘れてしまいたかった。

さっき来たばかりの道を駆け戻りながら、私は胸の中の悔しさが怒りに変わっていくのを感じた。私はアミナに怒っていた。仲の良かった私たちを突然置き去りにして群れを去ったこと、久しぶりに会ったと思ったら、私のアイザックを奪^(注3)ったこと。私はアイザックに怒っていた。私に良い顔をしながらも、既にアミナと一緒に暮らしていたのだ。もちろん、アイザックと何かを約束していたわけではない。それどころか、彼の誘いを断ったのは自分の方だ。理不尽だと自分でも分かっているながら、二頭に対する怒りを抑えることはできなかった。

もしかしたらアミナは既にアイザックの子を身ごもっているかもしれない。私はどうしようもなく悔しく、悲しく、激しく怒っていた。自分の感情をコントロールできないからこそ、何も考えないようにして、ただジャングルを駆け抜けた。嫌な感情をその場に置き去りにして、走り去ることができたらどれほど良いだろう。だが、ただだけ先を急ごうが、^(注4) 負の感情は私に付きまとった。

ついさっきまではジャングルの暮らしに夢を見ていた。野生の暮らしこそがゴリラとして身^(注5)の **I** に合った自然なもののだと、そこにこそ幸せがあるのではないかと思った。だが、私は気づいてしまった。私は普通のゴリラとして暮らしていけないかもしれない。私にはアミナとアイザックが仲睦まじくしている姿を見ていられないのだ。どうしてもそれを許すことができない。嫉妬^(注6) という言葉の意味を初めて知ったような気がした。

ゴリラなら一頭のオスに複数のメスがいるのが普通なのに。そうして初めて安全な群れが、家族ができるというのに。私にはそれが耐えられないのだ。アイザックに私以外のメスが寄り付くのが許せないのだ。

私にはなぜ自分が^(注7) そんな単純なことに耐えられないのか、分からなかった。だが、今ならサムと別れたチエルシーの気持ち^(注8) が分かる気がした。私は言葉を持ってしまったからか、それとも人間の文化に慣れすぎてしまったからなのか、いつのまにか人間と同じように感情的になってしまった。生存本能よりも、個体としての感情を優先するようになってしまったのかもしれない。

私は走り続けたが、やがて疲れ果てて地面に仰向けになった。遥か高く生えそろう木々の葉が **D** 揺れ、木漏れ日が細い光の柱のように、薄暗いジャングルの闇を貫いていた。私はその光の矢が揺れ動くさまをじっと見つめながら、息を整えた。

私は自分の感情を整理することができなかった。明確なことは、私はこれ以上ジャングルでは暮らせないということだ。一夫多妻制を我慢でき

なければ、群れで暮らせない。メスゴリラがたった一頭でジャングルを生き抜くことはできない。

私は野生のゴリラとして生きることができない。だが、人間として暮らすこともできない。アメリカに行っても、私は動物園の中で暮らすのだ。動物園の中には私の居場所があるのだろうか。動物園の中でも、ゴリラは群れで暮らすのだろう。私は新しい環境に我慢できるだろうか。いや、我慢する他ないのだ。少なくとも、アメリカに行くなら、私の感情を理解してくれる人がいるはずだ。今日のことをチェルシーに相談したら、きっと私のことを分かってくれるはずだ。

私はゴリラではない。私は人間でもない。ゴリラと人間の合間で彷徨^{さまよ}う何かだ。

私は誰かに理解してもらいたかった。私の気持ちを。私の II を。

死んだように地面に横たわる私をバカにするように、樹上でモナモンキーたちが声をあげている。頬^ほに金色の毛を蓄^{たくわ}えた愛らしい猿だが、なわばりを主張する犬のようなウワ、ウワ、という間の抜けた鳴き声はまったく猿らしくない。たつぷりと果実を詰め込んでいるのか、頬^ほが膨^{ふく}らんでいるものもいた。三十匹ほどの大きな群れだった。長く黒い尻尾^{しっぽ}を蛇のようにくねらせて移動する彼らを眺^{なが}めているうちに、^⑤私の心は少しずつ落ち着いていった。

私はゴリラでも人間でもない。それでいいじゃないか。

だからこそ私は特別なのだ。だからこそロイド上院議員が言っていたように、私に価値があるのだ。ジャングルが私の場所でもなくとも良い。私を必要とする人がいる、私を心待ちにする人がいる。それなら、その人たちが望むように私は生きよう。

人に望まれるように、期待に応えよう。きっとそこに私の場所があるはずだ。

私はジャングルやアイザックへの未練をすっぱりと断ち切り、研究所へ戻っていった。

(須藤 古都離「ゴリラ裁判の日」より)

(注1)「アイザック」……………半年前に出会ったオスゴリラ。

(注2)「ポポレ」……………私の父がボスを務めていた群れとは別の群れのボスの名前。

(注3)「カボンゴ」……………私の父とポポレとは別の群れのボスの名前。

(注4)「伴侶」……………人生を共に歩むパートナー、配偶者のこと。

(注5)「今なら〜気がした」……………サムとチェルシーは研究員同士で交際していたが、サムが他の女性に好意を抱きはじめて別れてしまった。

問 一、「私」とはどのような存在ですか。最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア、メスゴリラ イ、ロイド上院議員の秘書 ウ、アイザックの元恋人 エ、ゴリラの研究員

問 二、

A

D

 にあてはまる言葉の組み合わせとして最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア、Aーぐるりと	Bーさらさらと	Cーじわじわと	Dーじつと
イ、Aーぐるりと	Bーじつと	Cーじわじわと	Dーさらさらと
ウ、Aーぐるりと	Bーじつと	Cーさらさらと	Dーじわじわと
エ、Aーじつと	Bーぐるりと	Cーさらさらと	Dーじわじわと
オ、Aーじつと	Bーぐるりと	Cーじわじわと	Dーさらさらと

問 三、——線①「突然の再会に、私は戸惑ってしまった」とありますが、それはなぜですか。その理由として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア、半年ぶりに会ったアイザックは、以前とは違い体格が良く、堂々としており、かつてのアイザックとかけ離れた様子だったから。
イ、半年ぶりに会ったアイザックは、かつての父を思い出させるような逞しさを身につけており、紳々しさまで感じてしまったから。
ウ、半年ぶりに会ったアイザックに、再会できた喜びを感じながらも、半年前と同じように誘われたとしても応えられないから。
エ、半年ぶりに会ったアイザックに、突然再会して嬉しさを感じながらも、特に心残りはなかったことを自覚してしまったから。

問 四、——線②「正反対の世界」とはどのような世界のことですか。「〽世界。」に続くように文章中から十四字で探し、抜き出して答えなさい。

問 五、——線③「負の感情」について説明した次の文章の空欄にあてはまる言葉を、文章中の言葉を使って十字以内で答えなさい。

仲睦まじいアイザックとアミナを目の当たりにして様々な感情を味わい、十字以内を初めて理解した。

問 六、Iに漢字一字を入れて、慣用句を完成させなさい。

問 七、——線④「そんな単純なこと」とはどのようなことですか。文章中から五字で探し、抜き出して答えなさい。

問 八、IIにあてはまる言葉として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア、我慢 イ、孤独 ウ、怒り エ、悔しさ オ、悲しみ

問 九、——線⑤「私の心は少しずつ落ち着いていった」とありますが、それはどのようなことですか。最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア、樹上で声をあげているモナモンキーたちを眺めているうちに、仲間で寄り添い合う姿から自分も同じように仲間たちと楽しく過ごしたいという本当の気持ちに気づいたということ。

イ、樹上で声をあげているモナモンキーたちを眺めているうちに、間の抜けた鳴き声や猿らしくない見た目に愛おしさを感じ、心が落ち着いていったということ。

ウ、樹上で声をあげているモナモンキーたちを眺めているうちに、間の抜けた鳴き声や猿らしくない見た目が目にとまり真剣に考えているのが馬鹿らしく思えてきたということ。

エ、樹上で声をあげているモナモンキーたちは、一見かわいらしい猿だが、猿らしくない部分を見つめているうちに、自分の特異性を受け入れていこうと決心したということ。

問 十、物語の最後には、「私」はどのような気持ちで研究所に戻りましたか。それを説明した次の文について、あとの問いに答えなさい。

「私」は、自分が特別だからこそ 1、二字 ある存在なのだということを悟り、状況に 2 する生き方をしようと決心し、研究所へ戻った。

1、 1 にあてはまる言葉を文章中から二字で探し、抜き出して答えなさい。

2、 2 にあてはまる言葉として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア、協力 イ、貢献 ウ、期待 エ、適応 オ、追従

問題は次ページに続きます。

三 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

①被災地から「がんばればなんて、かんたんに言わないでほしい」という声が聞こえてきます。離れた場所にいて被災していない人は、どう声をかけていいのか分からない。「がんばれ東北」とか「がんばろう日本」とか「被災された方にお見舞い申し上げます」といったテレビスポットが出たり、企業広告が出たりします。被災地の方にしたら、茫然^{ぼうぜん}となったたりハイになっているときには、見守ってくれている人がいる、ずっと自分たちのことを案じてくれている人がいるというのは嬉しい。震災直後の、わたしとしては最後になる大阪大学の卒業式の式辞で中井久さんの「ゴプレゼンス」という言葉をひいてその話をしました。じっと見守ってくれる人がいる、案じてくれているという感覚は、一番の支えになる。

A 「がんばって」という言葉は、逆境のなかで挫^{くじ}けてなるものかとみずからを叱咤^{しった}している人びとを後押しする言葉にはなりえても、時とともにいよいよ厚く重くのしかかる困難に、息も絶え絶えとなつて、立っているだけで精いっぱいといった状況にある人には、むしろ苛酷^{かこく}なものとなります。

震災後、長く避難生活が続き、復旧も遅れがちなかで、いろんな不可能性ばかりが見えてきて、それでも耐えているうち、被災者のなかに格差もどんどん眼につくようになってくる。もう、ただうずくまっているしかない状況で、だれかに「お気持ち、よく分かります」などと相づちを打たれたら、「そんなにかんたんに分かれてたまるか」と、低い声で吐きだすように返したくなる。「もう十分がんばりました」「これ以上何をがんばったらいいんですか?」、と。

②「心のケア、お断り」——そんな貼り紙をしている避難所があると、知人から聞きました。「聴^きく」ことの専門家への不信が、こんな形で現れることもあるのですね。衝撃^{しょうげき}でした。

一七年前、神戸の震災のとき、重い被災を背負った方にどう声をおかけしていいのか分からず、ただ聴くしかないにしても、その聴くことそのことのむずかしさを多くの人が思い知りました。言葉をささぎつて励^{はげ}ますこと、なかでもじぶんの体験を引き合いに出して励ますことが、相手に、ようやく搾^{しぼ}りだした言葉を逆に呑み込ませてしまうことを、臨床^{りんしょう}心理学者や精神科医は危惧^{きぐ}し、「ひたすら聴くこと」の大切さを説きました。ひたすら聴くというのは、その場で相づちを打つことではありません。

「分かる」というのは、おそらくはその字のとおり、「分かたれる」ということです。話しているうちに気持ちが一つになる、同じになるというよりも、B 逆に、一つの言葉に込められたものの意味や感触がそれぞれに異なること、相手との差異^{へた}・隔^{へた}たりがいよいよ細かく見えてくるということです。③「分かる」というのは、そのことを思い知らされることでもあるはずです。

阪神・淡路大震災のさなか精神科救急にあたり、その後も兵庫県こころのケアセンターを拠点に「傷ついた心の回復」に尽くしてこられた加藤

寛さんは、最相葉月さんとの共著『心のケア——阪神・淡路大震災から東北へ』のなかで、ケアにあたる者の心得として、「それ以上傷つけない」ことを最初にあげています。「何でもおっしゃっていいですよ」という言葉が、ときに相手の心に鎮めがたい氾濫を引き起こしかねないこと。^④ けて相手に「被災者役割」を押しつけないこと。よくよく心すべきことだと思えます。

分かるというのは、ここにいる他者の心持ちを知りつくせないことを思い知ることでしょう。そういう限界を知ってなお、支援グループの来訪以外はご免こうむりたいという気持ちだが、先の貼り紙には浮き出ていたのだと思います。

五月に仙台に行ったとき、「がんばってくださいね」という言葉だけはかけられなかった。「がんばりすぎないでくださいね」としか、言いようがありませんでした。語りなおしの時期に入ってきたときには、「そんなふうには考えないで」「もっと前向きに考えましょう」「希望を持ちましょう」という励ましは、ときにむごいノイズになってしまします。^⑤

語りなおすという心の作業は、さきほどふれたように不安定な状態に身を置くことだから、じぶんでも怖い。そのときに、他人が代わりに語ってくれるのはものすごく助かる。こういうふうには考えましようとか、あなたはいまこんな気持ちでいるんでしょう、こういうことがどうしても乗り越えられないでしょうと言われると、その場では一瞬、楽になれる。語りなおしを他人が助けてくれるわけです。でも、^⑤ それがじつは最悪の対応なのです。いつときはじぶんで語りなおすことを免除されるにしても代わりに語ってくれる人がいなくなったら、じぶんはまた元の木阿弥、元のストーリーに突き落とされてしまう。苦しいけれども、じぶんで語りなおさないことには事態は収束しない。

語り切るまで待つことが、伴走者の本当の仕事なんです。そのことをわたしは震災後に、『聴く』ことの力、その続編としての『待つ』ということ』のなかで考えました。聴く側はみな、「ごめんね、聴くことしかできなくて」と謝る。「もっと積極的にケアしてあげろよ」とか、「聴くなんて、じつとしていたらいだけだろう。もつといろいろできることがあるんじゃないか」と、この話はすぐには受け入れられなかった。わたしが『聴く』ことの力で訴えたかったのは、そうじゃないんじゃないか、^⑥ 聴くことが実は一番しんどい仕事なんじゃないか、ということ。『待つ』ということも同じで、待つというのは一見、何にもしてないように見えるけれど、実はもつともエネルギーがいることで大事なことです。という点です。

様々な喪失のなかでもとくに、親を亡くすこと、あるいは子どもや兄弟姉妹を亡くす、友人を亡くすこと、大切な人を亡くすことは、何より大きな喪失の体験です。

「死なれる」という言い方が日本語にはあります。これはすごく不思議な表現です。

『死なないでいる理由』の序文でも書いたことですが、日本語には、ヨーロッパの文法からするとありえない表現が少なからずあります。ヨーロッパ系の文法では、いわゆる受動形は他動詞にしかありません。「殴る」に対して「殴られる」、「押す」に対して「押される」……。ところが日本語の場合、英語でいう自動詞に当たるものの「受身形」の表現がいくつもあ

C、誰かに「泣かれて」困った。「泣く」(cry)は自動詞ですから、英語で「I was cried by my wife」(家内に泣かれて困った)なんていう言い方は、英語ではありえない。でも日本語だと、「泣かれて困った」と言います。恋人に「逃げられた」とか。「逃げる」も、英語では受身はありません。試験のときに監督にそばに「居られて」困った、とか。「いる」という言葉にしても、日本語だと「いられる」という受身形がある。「居座られる」という表現もそうでしょう。

そんななかに、「子どもに先立たれる」「子どもに死なれた」という言い方があります。これも「I was died by my son」という言い方は、英語では絶対にありえない。

⑦どれもこれも「痛い表現」ばかりです。誰かがいるとか誰かが泣く、誰かが逃げていく、出来事としては一応は完結していることで、直接的に、じぶんに何か働き掛けがあるわけではない。でも、その出来事が、じぶんにとっても取り返しがつかず、困ってしまったととらえて、じぶんにかかわりのあることとして受け止める。日本語はその気持ちを細やかに、そして強く表現する。

(鷺田 清一「語りきれないこと——危機と痛みの哲学」より)

(注1)「コプレゼンス」……………「他者とともに存在すること」の意味。阪神・淡路大震災当時神戸大学の付属医院に勤務しており、地方の医療従事者たちに救援要請を行った精神科医の中井久夫は「いてくれること」と訳した。

(注2)「危惧」……………あやぶみ、恐れること。

(注3)「氾濫」……………川の水などが増していきおいよくあふれ出ること。

(注4)「ノイズ」……………不要な音や情報。ここでは「コミュニケーションを妨げる望ましくないもの」という意味。

(注5)「さきほどふれたように」……………「語りなおす」ことについて、筆者は文章より前の部分で「人生はストーリーとしてのアイデンティティ(作問者注・自分らしさ)を自分に向けて語りつづけ、語りなおすプロセスである」とし、震災で自分は誰であるかというものの根柢や基盤を失った被災者たちは、自分についての語りを更新せざるをえないという厳しい過程が始まっていると述べている。

(注6)「元の木阿弥」……………一時よい状態になったものが、また前の状態にもどること。

(注7)「他動詞」……………目的語を必要とする動詞のこと。

問 一、

 にあてはまる言葉として最も適当なものを次から選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア、つまり イ、たとえば ウ、むしろ エ、けれども

問 二、――線①「被災地から『がんばれよなんて、かんたんに言わないでほしい』という声が聞こえてきます」とありますが、それはなぜですか。その理由として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア、被災していない側からの「がんばれよ」という安易な励ましは、震災後の困難だけでなく、被災者同士の格差にも苦しむ人たちの現状を考えていない、配慮に欠けた言葉だから。

イ、被災していない側からの「がんばれよ」という安易な励ましは、震災後の困難を前に立ちつくしている被災者に自分たちの善意を故意に押し付けて満足するという、無神経な言葉だから。

ウ、被災していない側からの「がんばれよ」という安易な励ましは、逆境に負けまいと気持ちを奮い立たせているような、被災者の中でもごく一部の人たちにしか効果が無い言葉だから。

エ、被災していない側からの「がんばれよ」という安易な励ましは、震災から時間が経つにつれてあらわになってくる、被災者間での格差をより広げてしまう言葉だから。

問 三、――線②「『心のケア、お断り』――そんな貼り紙をしている避難所がある」とありますが、この「貼り紙」について文章中から読み取れることとして最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア、過去の震災で効果があった「聴く」ことへの拒否反応に、筆者は精神科医療の限界を知って驚きを隠せないでいる。

イ、悲しみや苦悩を癒す「聴く」ことに長けた専門家のケアでさえ拒否するような、被災者の心の傷の深さがうかがえる。

ウ、「聴く」ことに長けた専門家が拒否されたことで、筆者は物資を届けること以外の支援を行うことに限界を感じている。

エ、心の傷を癒すケアを拒絶するほど、「聴く」ことにこだわる専門家たちへの被災者の不信感の強さがうかがえる。

問 四、——線③「『分かる』というのは、そのことを思い知らされること」とありますが、この言い換えになる部分を文章中から三十字以内で探し、最初と最後の五字を抜き出して答えなさい。

問 五、——線④「けして相手に『被災者役割』を押しつけないこと」とありますが、「相手に『被災者役割』を押し付け」とはどのようなことですか。最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア、被災した人が完全に立ち直るには全員に丁寧な心のケアが必要だと、ケアする側が偏った考えを持って接すること。

イ、被災した人は誰でも辛さや悲しみを聞いて欲しがっているはずだと、ケアする側が勝手に思い込んで接すること。

ウ、被災した人の辛さや悲しみはすべて受け止め切ることが大切だと、ケアする側が無理をして接すること。

エ、被災した人は一刻も早く辛さや悲しみを外に吐き出すべきだと、ケアする側が危機感を持って接すること。

問 六、——線⑤「それがじつ是最悪の対応なのです」とありますが、それはどのようなことですか。それを説明した次の文の空欄に当てはまる言葉を、それぞれ文章中から指定された字数で抜き出して答えなさい。

1、十五字

ことで、自分を

2、二、三字

にさせる自力での語りなおしを避けることができるため、一見すると良いことのように思われるが、かえって自分を取り巻く事態を悪化させてしまうということ。

問 七、——線⑥「聴くことが実は一番しんどい仕事なんじゃないか」とありますが、次の会話は文章を読んだ生徒たちがこれについて考えたことを話しているものです。文章の内容や筆者の考えとして最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア、生徒A——阪神・淡路大震災で重い被災を背負った方に対して、臨床心理学者や精神科医は「ひたすら聴くこと」の大切さを説いたと書いてあったけれど、筆者は「聴くことが実は一番しんどい」と述べているから、その考えに真っ向から対立しているってことだよな。

イ、生徒B——そうじゃなくて、「ただ聴くこと」は一見何もしていないようにみえて本当は一番エネルギーを消耗する大変な作業だから、しかるべき訓練を積んだ専門家以外は決して対応してはいけない、筆者はそう言いたいんだと思うな。

ウ、生徒C——「語り切るまで待つことが、伴走者の本当の仕事」とあったけれど、もし悩んでいる友達から相談を受けたら、その子のためだと思ってつい自分の考えや経験を引き合いにアドバイスしたくなる。重い被災を背負った方を励ましたくなる気持ちをおさえて、ただ寄り添うというのはすごく難しいことなんじゃないかと思ったよ。

エ、生徒D——確かにそうだよね。「聴く」とことと「待つ」ことは同じで、被災した方々に何も働きかけられていないことに歯がゆさを感じてしまいそうなんだけど、「聴くことしかできなくてごめんね」という謙虚な気持ち^{けんきょ}を持ってさえいれば、何も言えなかったとしても聴く側の誠意はきちんと伝わるんだと感じたな。

問 八、——線⑦「どれもこれも『痛い表現』ばかりです」とありますが、それはどのようなことですか。最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア、「子どもに先立たれる・死なれる」という、日本語独特の自動詞の受身表現を英語と比べることによって、日本語が持つ感情表現の細やかさが際立つようになるということ。

イ、「子どもに先立たれる・死なれる」という、英語にはない日本語独特の自動詞の受身表現は、「自分の子どもが死ぬ」と言うときよりも震災の被害の大きさがより強調されるということ。

ウ、「子どもに先立たれる・死なれる」という、日本語独特の自動詞の受身表現によって、親にとって子どもの死は取り返しのつかない重い喪失^{そうしつ}であるという気持ちを、周りにより強く訴えかけるということ。

エ、「子どもに先立たれる・死なれる」という、日本語独特の自動詞の受身表現は、子どもの死が親に大きな影響を与えることを意味するとともに、親の悲痛な想いをより強く伝えるということ。

三

八	七	六		五	四	三	二	一		
		2	1					C	B	A

二

十	九	八	七	六	五	四	三	二	一
2	1								

一

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1

〈受験生はこれより上段には記入しないこと〉

三

問一

A

B

C

問二

問三

問四

最初

}

最後

問五

問六

2

1

3

問七

問八

問九

問十

1

2

15

二

問一

問二

問三

問四

問五

問六

問七

問八

10

14

世界。

一

6

コ

ガイ

イ

7

シ

シ

ツ

8

ジ

ゴ

ウ

9

テン

ボ

ウ

10

セ（りあう）

りあう

1

定

石

2

山

河

3

集（い）

い

4

自

責

5

熟（れる）

れる

令和8年度 特選コース

第Ⅰ回 中学校入学試験問題 〔国語〕 解答用紙 （2月1日午前）

注意事項

・解答は解答欄の枠内に濃くはっきりと記入して下さい。
・解答欄以外の部分には何も書かないで下さい。

氏 名

受験番号

0	0	0	0
1	1	1	1
2	2	2	2
3	3	3	3
4	4	4	4
5	5	5	5
6	6	6	6
7	7	7	7
8	8	8	8
9	9	9	9

評価点